

[パネルディスカッション]

情報システムの調達とトラブル対応

IOT 研究会には大学の情報系センターなどで物品の調達に関わっている方が多数おられますが、物品の調達において苦労した経験を皆さんお持ちではないでしょうか。たとえばファイアウォールや迷惑メール対策アプライアンスなどの調達において、導入すべき機能・性能をうまく仕様書に書けなかったり、あるいは導入後に思わぬトラブルに遭遇して対応に苦慮したりする例は少なからず存在します。そこで、今回のパネル討論ではどのような仕様書を書けばよいか、トラブル発生時の対処法はどうすべきか、学会（IOT 研究会）としてこの問題にどのように取り組めばよいか、などについて議論します。

コーディネータ：

山井成良（岡山大学）

パネリスト：

安東孝二（株式会社 mokha）

東大において多数の物品の調達に携わったご経験を持ち、またコンサルタントとしてもご活躍されていることから、どのような仕様書を書けばよいかという観点からお話しいたできます。

石島悌（大阪府立産業技術総合研究所）

製品評価技術基盤機構「事故原因技術解析ワーキンググループ」の委員を務められているご経験から、情報機器についても不具合・インシデント・事故などがあれば、それを評価・議論し、公表できる仕組みの可能性についてお話しいただきます。

高橋優亮（ユニアデックス株式会社）

物品を提供する側の立場から、どのような仕様書ならいいのか悪いのか、トラブルが発生した場合にはどのように調達者側が動けばよいか、などについてお話しいただきます。